

Title	カザフの政治エリート
Sub Title	Political elite in Kazakhstan
Author	中沢, 精次郎(Nakazawa, Seijiro)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1981
Jtitle	法學研究：法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.54, No.3 (1981. 3) ,p.119- 135
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	遠峰四郎教授退職記念論文集
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19810315-0119

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

カザフの政治エリート

中 沢 精 次 郎

一

本論文の表題にあるカザフとは、ソ連邦の構成共和国の一つであるカザフを指しており、カザフ人 (Kazakh) を意味するものではない。

ソ連に居住するカザフ人は、一九七九年一月一七日現在の国勢調査によると、六、五五六、〇〇〇人⁽¹⁾を数え、ソ連人口の二・五％を占めており、またその人口の自然増加率は、前回 (一九七〇年一月一五日現在) の国勢調査を基にしてはかると、アルタイ系言語のトルコ語族に属する他のイスラム教系民族のウズベク人、トゥルクメン人あるいはキルギス人ほどではないが、全連邦平均の自然増加率八・四％に対して二三・七％という高い数字を依然として保っている。もつとも、カザフ人のすべてがカザフ共和国に居住しているわけではないのであつて、カザフ人口の八〇・七％がこの共和国に、一〇・七％がウズベク、トゥルクメン、キルギスの諸共和国に居住しており、したがつてカザフ人は散居性の低い民族の一つであるけ

れども、カザフ共和国人口におけるカザフ人の構成比率もまた決して高くはない。民族名を共和国に冠したその民族が当該共和国の人口の過半数以下にとどまる共和国として、カザフはキルギスとともに、しかもキルギスのそれよりも低いいわば例外的な存在である。すなわち、カザフ共和国人口の四〇・八%をロシア人が、六・一%をウクライナ人が、二・一%をタール人が、そして一・八%をウズベク人がそれぞれ占め、カザフ人は三六%にすぎず、⁽²⁾いわばこの国の少数民族である。

したがつて、カザフ共和国のカザフ人はその九八・九%がカザフ語を母語としているとはいえ、その四一・六%はロシア語を自由に使い得る第二言語(второй язык)としており、多数民族であるロシア人でカザフ語を第二言語としているものの比率はわずかに一・一%である。⁽³⁾したがつて、カザフ人ではなくカザフ共和国の政治エリートを対象とする以上、この共和国の特異な民族的構成との関連が問題視されるべき一面ともなるが、民族政策あるいは民族問題とは異なる後述のような観点からの分析を企図する本論文においては、所属民族(национальность)からするエリートの類型化や特定の民族に属するエリートの動態に言及することはあつても、民族問題的なアプローチはしばらく措くことにしている。

ロシア帝国の中央アジアへの進出は一九世紀の五〇年代にカザフスタンの併合を果し、一九世紀末にかけてこの方面の国境線を天山山脈・パミール高原へと南下させた。⁽⁴⁾社会主義革命後この地方にもソヴェト政権が樹立され、一九二〇年八月二六日カザフスタンにはキルギス・ソヴェト社会主義自治共和国が建設された。この自治共和国は一九二五年四月一九日にカザフという歴史的な名称に改められ、一九三六年一月五日自治共和国から連邦構成共和国に昇格し、ロシア共和国に次ぐ広大な国土と、石炭、石油、有色金属といった地下資源に恵まれ、また農業や畜産においても連邦への貢献度の高い共和国として今日に至っている。

それ故に、今年(一九八〇年)の八月三〇日首都アルマアタでは、カザフ共和国・共産党六〇周年記念式典がソ連共産党中央委員会書記長兼ソ連邦最高会議幹部会議長のブレジネフ・Л・И (Брежнев, Леонид Ильич)を迎えて盛大に催され

ており、カザフ共産党中央委員会第一書記クウナエフ・Д・А (Кунаев, Динмухамед Ахмедович) の挨拶ではじまったこの式典において、ブレシネフは演説の冒頭で、四半世紀前に「一緒に最初の耕溝から広大な処女地を開拓しなければならなかった友人や労働のベテランの顔を見ると、今諸君とともに、当時はじめられた事業が成功裡に続けられていることを喜びとするものである」と語っているが、たしかにブレシネフ自身にとつても、カザフはモスクワにかえり咲く機会を彼に与えた因縁の地であつた。すなわち、一九五四年二月、前連邦党書記兼政治局員候補で当時は国防省政治総本部第一副本部長(当初は海軍省の政治本部長であつたが、就任一週間後に海軍省は廃止されて国防省に統合された)のポストに格下げされていたブレシネフは、南西シベリアやカザフスタンの処女地開発計画を強くおしていた党書記長フルシチョフ・Н・С (Хрущев, Никита Сергеевич) の手で、カザフ党第二書記としてこの地に送りこまれ、一九五五年五月党第一書記ポノマレンコ・П・К (Пonomarenko, Пантелеймон Кондратьевич) の駐ポーランド・ソ連大使への転出の後をうけて党第一書記に昇格、前カザフ共和国科学アカデミー総裁で冶金学者の首相クウナエフの協力を得て関心をカザフスタンの鉱物資源の開発と採鉱・精錬・冶金工業の発展へと向けていつた。一九五五年のカザフの農業生産は天候不順もあつて前年よりも大きく後退したが、この年の八月連邦首相の座からマレンコフ・Г・М (Магенов, Георгий Максимиланович) を追いおとした党書記長は反フルシチョフ派の一掃にふみきり、ブレシネフの手腕に期待して彼を一九五六年二月モスクワに呼びもとし、党書記兼政治局員候補のポストを与えたのである。一九六四年一月一日フルシチョフに代わつて党書記長となつたブレシネフの下で、クウナエフは、再びカザフの党第一書記に就任(一九六四年二月七日)、その二年後の一九六六年四月には政治局員候補に登用され、ついで一九七一年四月に政治局員となり、ブレシネフ人脈の一翼をなして現在に至っている。

したがつて、すでに一六六年余に及ぶブレシネフ時代の、すでに一六六年余にも及ぶが故に、その総括を試みるにあたつては、クウナエフを頂点とするカザフの政治エリートの連邦中央との関連こそがまず観察されるべき側面ではなからうかと

考える。

二

連邦憲法によるとソ連邦国権の最高機関は連邦最高会議であると、また党規約にはソ連邦共産党の最高機関は連邦共産党大会であると規定されている。両者はいずれも連邦レヴュールの代表機関ではあるが、前者はソ連の市民の最高の代表機関であり、後者はソ連の共産党員の最高の代表機関であつて、理論的にも歴史的にもまったく別個の存在である。それぞれがソヴェト政治において果たす役割は無論のこと、代議員選出の手続や方法においても、その構成員数つまり規模においても著しく異なっている。権限においてはまったく平等な連邦会議と民族会議の二院から成る連邦最高会議の代議員は五年毎⁽⁷⁾（かつては四年毎⁽⁸⁾）に市民の直接選挙によつて選ばれるが、連邦党大会の代議員は通例では五年毎（かつては四年毎）に市民の直接選挙によつて選ばれる。つぎに、一九六〇年代に入つてから今日に至るまでの約二〇年の間に改選された連邦最高会議と召集された連邦共産党大会を時間的な順序で、またそれぞれの構成員数を付して記してみよう。

第二二回連邦党大会

一九六一年一〇月一七—三一日開催 代議員総数四、八一三名（党員代表四、四〇八名、党員候補代

表四〇五名

第六期連邦最高会議

一九六二年三月一八日選出 代議員総数一、四四三名（連邦会議代議員七九一名、民族会議代議員六

五二名

第二三回連邦党大会

一九六六年三月二九日—四月八日開催 代議員総数四、九四三名（党員代表四、六二〇名、党員候補

代表三三三名

第七期連邦最高会議

一九六六年六月一二日選出 代議員総数一、五一七名（連邦会議代議員七六七名、民族会議代議員七

五〇名

第八期連邦最高會議

一九七〇年六月一四日選出 代議員総数一、五一七名（連邦會議代議員七六七名、民族會議代議員七

五〇名

第二四回連邦党大会

一九七一年三月三〇日—四月九日開催 代議員総数四、九六三名（黨員代表四、七四〇名、黨員候

補代表二二三名）

第九期連邦最高會議

一九七四年六月一六日選出 代議員総数一、五一七名（連邦會議代議員七六七名、民族會議代議員七

五〇名

第二五回連邦党大会

一九七六年二月二四日—三月五日開催 代議員総数四、九九八⁽⁹⁾名

第一〇期連邦最高會議

一九七九年三月四日選出 代議員総数一、五〇〇名（連邦會議代議員七五〇名、民族會議代議員七

五〇名

フルシチョフ時代においては前記した第二二回党大会を含めて党大会は三たび召集された。一九五六年二月の第二〇回党大会の代議員総数は一、四三六名（黨員代表一、三五五名、黨員候補代表八一名）、また第二一回臨時党大会——臨時党大会であつたため、この党大会では中央委員会の改選は行われていない——の代議員総数は一、三七五名（黨員代表一、二六九名、黨員候補代表一〇六名）であつた。したがつて、一九六〇年以前にさかのぼると党大会と最高會議とは規模においてさほど大きな開きはなかつたわけであるが、一九六一年一〇月に収容人員六、〇〇〇人の大会宮殿（Кремлёвский дворец съездов）の竣工にともない、党大会代議員数はすでに記したように一挙に増加した。しかし、代議員選挙は、制度的にいえば党大会では重疊的な間接制を採用しているためにまた最高會議では推薦制を原則としているために、複数候補者のなかからの選択ではなくして特定された候補者への信認投票に他ならないのであつて、代議員の年齢、性別、所属民族、学歴、職業あるいは職

種、社会的地位もしくは身分上の構成には、党大会は党大会なりのまた最高会議は最高会議なりのパターンが自ら存在する。しかもまた、党大会と最高会議では後者には非党員代議員が含まれるといった決定的な差異はあるけれども、それぞれのパターンは相似する。すなわち、党大会も最高会議も代議員は大別すると、主として労働者・農民からなる象徴的・榮譽的 (symbolic) な代議員と職權上 (ex officio) の代議員から構成されており、前者は再選されることはまずないが、後者は職權上の代議員資格を与えられたポストないしはポジションに在任するかぎり、立候補者に推されて代議員となる。もつとも、エクス・オフィシオ・メンバーシップを備えたポストの種類、特にそうしたポジションの下限となると、それらは規模の違う党大会と最高会議とでは当然異なってくるし、また時々によつて若干の変化も見受けられなくもない。しかし、代議員という鮮明なかたちで連邦レベルでのエリートの枠づけがなされている以上、この枠づけこそまず利用されるべきであろう。では、カザフからはどのような代議員がおくり出されているのであろうか。例として、一九七四年の第九期連邦最高会議を取り上げてみよう。

第九期連邦最高会議においてカザフ共和国に選挙区をもつ代議員は七一名 (連邦会議代議員三九名、民族会議代議員三二名) である。その内には党籍のない代議員も無論含まれているが、この七一名の内、労働者・農民 (コルホーズ議長を含む) の三二名、工場長とソフホーズ所長の二名、中学校教師と女医の二名を合せた三六名はいわゆるテイル・メンバーであつて、残りの三五名はつぎのような役職の在任者である (役職名の後に付した括弧内の数字は員数である)。

カザフ共産党の第一書記、第二書記、中央委員会部長 (一一)、州党第一書記 (一九)、アルマアタ市党第一書記

カザフ共和国の首相、農業大臣、国家保安委員会議長、最高会議幹部会議長、科学アカデミー総裁、中央アジア軍管区司令官、ヴェ・イ・レーニン名称ウスチカーメノゴルスク鉛・亜鉛コンビナート所長

ソ連共産党中央委員会部長 (一一)、ソ連邦の中型機械製作大臣、有色冶金大臣、組立・特殊建設大臣、全ソ農業技術公団

総裁

ついで、前記の最高会議代議員選挙の翌々年に召集された第二五回連邦党大会を挙げてみると、カザフの党組織から選出された代議員は二一八名である。無論、全員が党員であつて、労働者・農民（コルホーズ議長を含む）の八三名、ソフホーズ所長・工場長・企業長の二四名、軍人の八名、中学校教師・女医その他の九名を合せた一二四名がテイル・メンバーであり、残りの九四名はつぎのような役職の在任者である（役職名の後に付した括弧内の数字は員数である）。

カザフ共産党の第一書記、第二書記、書記（三）、中央委員会部長（一）、州党第一書記（一九）、区党第一書記（二五）、市党第一書記（五）、党組織の書記（一）

カザフ共和国の首相、第一副首相（二）、副首相兼ゴスプラン議長、有色冶金大臣、農業大臣、重工業大臣、国家保安委員会議長、州ソヴェト執行委員会議長（一九）、アルマアタ市ソヴェト執行委員会議長、最高会議幹部會議長、労働組合評議會議長、科学アカデミー総裁、作家同盟第一書記、建築家同盟理事長、コムソモール中央委員会第一書記、アルマアタ州コムソモール第一書記、中央アジア軍管区司令官、中央アジア軍管区政治本部長、カザフ国立大学学長

ソ連共産党中央委員会部長（一）、ソ連邦の農業大臣、中型機械製作大臣、有色冶金大臣、水運大臣、地質大臣、外務省次官（一）、航空機製作省次官（一）、「経済新聞」（Экономическая газета）総編集長、全ソ連邦・コムソモール中央委員会書記（一）

以上のように、一九七四年選出の最高会議と一九七六年召集の党大会とは、構成員数において著しく異なつてはいるものの、両者に共通するエクス・オフィシオ・メンバーシップを備えたポストが少なからず見受けられる。したがつて、観察をカザフ関係にかぎり、また一九六〇年以後のつまり第七期から第一〇期までの最高会議と第二二回から第二五回までの党大会において、エクス・オフィシオ・メンバーシップを与えられたポストないしポジションを整理すると、検討を要するつぎ

のような問題点があらわれる。

まず第一は、党大会ではカザフ党の書記局の全構成員が代議員となつていながらもかわらず、最高会議では党第一書記と党第二書記を含むその若干名に常にかざられていることである。カザフの党書記局は通常は六名時には五名から成つてゐる。この内で最高会議の代議員に選ばれた書記局員は、第一書記と第二書記を含めて数えると、第六期では三名、第七期では四名、第八期では三名、第九期では既述したように二名、第一〇期でも三名にすぎないのである。

第二は、州の党第一書記は党大会は無論のこと最高会議にもすべて代議員に選ばれていることである。一九六一年の第六期の最高会議代議員選挙当時すなわちフルシチョフがカザフの処女地開拓に彼の政治的生命をかけていたころ、この共和国内の行政区劃が改められ、州を統合して三つの地方 (region) という行政区劃が設けられた。したがつて、地方にも党組織がおかれたが、ザパドノカザフ地方、ユージノカザフ地方、ツェリーナヤ地方の党第一書記はいずれも党大会は無論のこと最高会議にも代議員として選ばれている。その後、地方の行政区劃は廃止され、また一九六七年から一九七三年にかけては新たに四つの州 (タルディケルガン、トゥルガイ、マンギシラーク、ジエズカズガン) が形成されているが、これらの州を含むすべての州の党第一書記が最高会議の代議員にも選ばれている。

第三は、首相、最高会議幹部会議長、それに労働組合評議会議長は党大会にも最高会議にも代議員として選ばれているが、閣僚会議幹部会——首相、第一副首相 (複数)、副首相 (複数) から構成される——のメンバーは、首相を除いては、必ずしも党大会と最高会議の双方の代議員とはなつていないことである。第九期の最高会議には第一副首相は見当らず、農業大臣が第九期と第一〇期の最高会議に議席をもつた。副首相では兼ゴスプラン議長が第六期の、また兼外務大臣が第七期の最高会議にのみ認められる。ところが、国家保安委員会議長は第六期以後連続して最高会議代議員にも選出されており、また中央アジア軍管区司令官が第二四回党大会以後すなわち一九七一年以後には最高会議の代議員としても登場している。⁽¹²⁾

要するに、最高會議のエクス・オフィシオ・メンバーシップが党大会のそれよりも狭められていること、別言すると高められていることは、両者の規模の相違からして当然ではあろうけれども、最高會議においては、カザフ党中央の第一書記と第二書記を除いた書記よりもむしろローカルの州党一書記が尊重され、また本来は上位にあるはずの第一副首相や副首相を差し置いて二、三の閣僚が特別視されている。果して、最高會議と党大会のいずれの評価が連邦中央の評価を伝えているのであるか。

三

連邦構成共和国であるカザフでは、手続的には連邦の場合と同じように、共和国国権の最高機関である最高會議——共和国の最高會議は一院制である——が改選されると、首相は全閣僚とともに解任状を最高會議に提出する。最高會議は首相を任命し、新首相の提出する閣僚名簿を承認する。また、カザフの党組織の最高機関である共和国党大会はその閉会に先立つて、次回の党大会召集に至るまでの間党活動の指導に当る中央委員会を選出し、新中央委員会はその最初の総会において党書記を含むビュロー⁽¹³⁾ (Бюро) を選出する。このビュローは、一種の合議機関 (коллективный орган) であつて、党あるいは政府もしくはそれら以外の公的機関の専従者から構成されており、連邦レヴェルでいえば政治局 (Политическое бюро) に相当するものであつて、カザフの国政上の中核機関である。なお、ウクライナ党にはビュローという機関はない。この国の特殊性が考慮されてか、ビュローに当る機関は、連邦党の場合と同様に政治局と呼ばれている。

ところで、カザフのビュローは一般には一〇名前後のビュロー員と二名前後のビュロー員候補から成つている。ビュロー員候補を欠いていた時もある。では、職権上この機関の構成員たり得るポスト・ポジションとはどのようなものであろうか。

まず、党書記局であるが、その構成員である書記はすべてビュローに加えられている。党書記局は第一書記と第二書記を含む六名(時には五名)から成っており、全員が必ずビュローの構成に加わっているが、ビュロー員ではなく一時期ビュロー員候補であつた党書記がなかつたわけでもない。また、カザフ党中央の書記以外には、アルマアタ州の党第一書記がビュロー員を兼ねているが、これは最近のことである。ペイセバーエフ・М (Бисебаев, Мамыхан) が一九五八年一〇月に第一副首相からアルマアタ州党第一書記に転出しているが、一九六〇年の三月にはそれまで兼ねていたビュロー員を解任されており、ペイセバーエフに代わつて党第一書記となつたディノフ・Н・В (Дихнов, Николай Васильевич) も彼の後任者ニヤズベコフ・С・В (Ниязбеков, Сагир Билалович) もビュローの構成には加わっていない。一九六五年四月ニヤズベコフの最高会議幹部会議長への転出のため、シャムブウルスク州の党第一書記からアルマアタ州の党第一書記に移つたアスカロフ・А (Аскаров, Асанбай) が翌年の三月にはじめてビュロー員候補に、ついで一九七一年二月にビュロー員に登用された。したがつて、アルマアタ州党第一書記のポストにはビュロー員資格が付与されてきたとはいひ難いことになる。

ビュロー員資格を備えた党関係以外のポストとしては最高会議幹部会議長がある。タシエネフ・Ж・А (Ташенев, Жумабек Ахметович) 、カリブジャノフ・Ф・К (Карибжанов, Фазыл) 、シフリイポフ・Н (Шарыпов, Леонид Наумович) 、ニヤズベコフ⁽¹⁴⁾、そして現在ではアブドウカリモフ・И (Абдукаримов, Исатай) と歴代の幹部会議長はいずれもビュロー員である。首相もまた同様であつて、クウナエフ (Кунаев, Динмухамед Ахмедович) 、タシエネフ、ダウレノフ・С (Дауленов, Салкен) 、ペイセバーエフ、クウナエフ、ペイセバーエフ、現在のアシモフ・Б (Ашимов, Байкен) と歴代の首相はいずれもビュロー員であるけれども、第一副首相(二名) が必ずビュロー員資格を兼ねるといふ慣例はない。一般には第一副首相の一名がビュロー員をまた他の一名がビュロー員候補を兼ねているが、ビュロー員を兼ねた第一副首相不在の場合

がないわけでもない。副首相兼ゴスプラン議長のビュロー員候補への登用は一九六六年のシマコフ・K・M (Симаков, Каюм Мухамеджанович) の例を除いては他に見当たらない。つぎに閣僚であるが、党・国家統制委員会議長 (人民統制委員会議長) のコズロフ・Г・А (Козлов, Георгий Алексеевич) の一例があるのみである。しかし、中央アジア軍管区司令官が一九七一年以後ビュロー員であること、国家保安委員会議長が一九七六年以後ビュロー員候補をとめていることが注目される。なお、最近は労働組合評議会議長が、ビュロー員に昇格したアルマータ州党第一書記に代わつてビュロー員候補をとめている。

ところで、観察をカザフ内に限定してこの共和国のエリートの動態をおつてみると、党の書記局員、州党第一書記、閣僚会議幹部会構成員、州ソヴエト執行委員会議長から成る指導集団⁽¹⁵⁾ (common leadership pool) の存在につきあたる。無論、指導集団内部においては、州のソヴエト執行委員会議長から州党第一書記へあるいはまた州党第一書記から党中央の書記へといつた流れや時には逆の流れがみられるのであるが、連邦の党大会はこの指導集団の全員を既述したように代議員としているわけである。ところが、カザフの党中央はこの集団のなから全書記局員を選抜してビュローに加え、アルマータ州を除いた全州の党第一書記をビュローの外にしているけれども、連邦の最高会議は州の党第一書記とソヴエト執行委員会議長を選別して前者にのみ議席を与え、しかも書記局員を選別してそのほぼ半数を最高会議の外に残している。では、カザフのエリートについての共和国レヴェルの選別・評価と連邦レヴェルの選別・評価とはあくまでも食い違ふとみるべきであろうか、それとも両者は実は相似すると解すべきであらうか。

四

一九五三年三月五日、党書記長兼首相スターリン・И・В (Сталин, Иосиф Виссарионович) の死去にともなう後継者問

題を審議・決定するために、党中央委員会総会、閣僚会議および最高会議幹部会の三者合同会議が開かれて、党書記兼副首相マレンコフが首相に任命された。しかし、その一週間後の三月一四日の総会で中央委員会はマレンコフを党書記から解任し、七月の総会では第一副首相兼内務大臣ベリヤ・J・II (Беря, Ясепенть Парович) を党と人民の敵として糾弾し彼の党籍を剥奪、ついで九月の総会では党書記フルシチョフを党書記長に選出した。かくして、ここにフルシチョフ時代がはじまつたわけであるが、スターリン死後の集団指導制の下で中央委員会はかつての形骸的な機関から脱してようやくその存在理由を明らかにしはじめたのである。一九五七年六月のいわゆる反党事件の際にフルシチョフの勝利を決着づけたのも、あるいはまた一九六四年一〇月一四日の党書記長兼首相フルシチョフの解任⁽¹⁶⁾を決定したのも中央委員会総会であつた。その一〇月総会において採択されたと伝えられる党書記長の首相兼任禁止の決議は、いまだにその有効性を失つてはいない。したがつて、中央委員会の構成を通して、カザフのエリートを改めて点検してみたい。

第二二回党大会選出の委員(一七五名)には党第一書記、ツェリーナヤ(処女地)地方第一書記兼党書記、カラガンダ州党第一書記、首相の四名、また委員候補(一五五名)としては党第二書記、党書記、アルマーアタ州党第一書記の三名

第二三回党大会選出の委員(一九五名)には党第一書記、党第二書記、アルマーアタ州党第一書記、クスタナイ州党第一書記、ウラリスク州党第一書記、首相の六名、また委員候補(一六五名)としてはアクチュビン州党第一書記、カラガンダ州党第一書記、第一副首相、最高会議幹部会議長の四名

第二四回党大会選出の委員(二四一名)には党第一書記、党第二書記、アルマーアタ州党第一書記、カラガンダ州党第一書記、クスタナイ州党第一書記、ウラリスク州党第一書記、首相、最高会議幹部会議長の八名、また委員候補(一五五名)としてはアクチュビン州党第一書記、クズィリールジン州党第一書記、コクチェタフ州党第一書記、セヴェロカザフ州党第一書記、ツェリノグラード州党第一書記、第一副首相、科学アカデミー総裁の七名

第二五回党大会選出の委員（二八七名）には党第一書記、党第二書記、アルマーアタ州党第一書記、ジャムブウルスク州党第一書記、カラガンダ州党第一書記、コクチェタフ州党第一書記、クスタナイ州党第一書記、ツェリノグラード州党第一書記、首相、最高会議幹部会議長の一〇名、また委員候補（二三九名）としてはヴォストチヌーカザフ州党第一書記、セヴェロカザフ州党第一書記、トゥルガーイ州党第一書記、第一副首相、科学アカデミー総裁の五名

第二二回、第二三回、第二四回そして第二五回の党大会がそれぞれ選出した前記のような委員もしくは委員候補については結論的にいえば、カザフのエリートに関する中央委員会のエクス・オフィシオ・メンバーシップと最高会議のそれとは近似するというものになろう。もつとも、中央委員会にも、きわめて少数ではあるけれども、テイル・メンバーは存在する。

しかし、委員候補を含めて中央委員会の大多数は、職権上、委員もしくは委員候補として選ばれているのであつて、中央委員会の構成員特に委員の増加と平行してこの委員会に選出された州（地方）党第一書記は、一九六一年の委員三名（その内の一名は党書記兼任）から、一九六六年の委員三名と委員候補二名に、一九七一年には委員四名と委員候補五名に、そして一九七六年には委員六名と委員候補三名へと確実に増加しているにもかかわらず、党第一書記と党第二書記以外の党書記では一九六一年にわずか二名が選出されたにすぎない。しかも、この場合委員に選ばれた一名の党書記は地方党第一書記を兼任しており、他の一名の党書記は党第二書記とともに委員候補にとどめられていた。したがつて、カザフのエリートについての連邦レヴェルでの選別・評価は中央委員会と最高会議のエクス・オフィシオ・メンバーシップによつて代表されているというものになろう。しかし、そうした理解を前提とすると、共和国中央の選別・評価と連邦中央のそれとは明らかに食い違ふことになる。なに故にであろうか。

カザフのエリートについての連邦レヴェルでの選別・評価と共和国レヴェルでのそれとの食い違いを生じさせている一因は、ビュローに要求されている役割に求められなければならない。共和国党のビュローは連邦党でいえばその政治局に

当るとすでに指摘しているが、ビュローのエクス・オフィシオ・メンバーシップがカザフ党中央委員会付属の機関(annapart)を指揮・監督する全党書記と首相および第一副首相に与えられ、時にはまたそれが中国と国境を接するこの地方を統括する中央アジア軍管区司令官にまで拡大されていることは、ビュローというこの装置が共和国の国政をコントロールする連邦・党中央のパネルであることを物語っている。中央委員会のエクス・オフィシオ・メンバーシップをもたない共和国の国家保安委員会議長が、決議権のないビュロー員候補としてにせよ、一九七六年以来ビュローの構成に加えられていることは、この装置がカザフにおける連邦・党中央のコントロール・パネル(control panel)であることを忠実に伝えていよう。連邦の国家保安委員会議長がスターリン死後はじめて政治局に加えられたのはブレジネフ時代の一九六七年六月に政治局員候補としてであつて、政治局員に昇格したのは一九七三年四月のことであつた。

しかしながら、ビュローはその性格上、政治局と同様に、構成員が少数にかぎられるとはいへ、アルマータ州以外の州の党第一書記をビュローに加えて得ない——加えて得ない理由が他にないわけではないと思われる。たしかに、アルマータ州は人口七〇万をこえる首都アルマータ市をかかえており、党員数の上では他の州を完全に圧しているようが、第二五回党大会を例にとつていえば、人口一五五万余のカラガンダ州の党協議会からは一七名の代議員が、人口一二八万余のチムケント州の党協議会からは一六名の代議員がこの党大会におくり出されている。人口一〇〇万には満たないヴォストチヌー・カザフ州でも一五名の代議員が選出された。また、エストニア共和国党大会選出の連邦党大会代議員は三二名、トゥルクメ共和国党大会のそれは二七名であつた。第二五回党大会の代表選出基準は党員六、〇〇〇名について代議員一名であることからすると、アルマータ州以外のカザフの州党组织がいずれもとるに足りない弱小の組織であるとはいひ難い。カザフ共和国のように人口の民族的構成においてロシア人の占める比率の高いところでは、かつて試みた分析⁽¹⁸⁾によると、ロシア人の党组织率はロシア人全体のそれよりも非常に高いという推定が成立する。すなわち、アルマータ州を除く他の州の党第

一書記をビュローの外におく——ビュローの外におかしめる一因は、カザフ党第一書記個人の影響力の拡大をおそれる党中央の懸念ではないかと考えられるのである。党中央の政治局にあつては、フルシチョフ時代においては政治局員を兼ねるローカルな党第一書記は一名（ウクライナ党第一書記カモスクワ市党第一書記）であつたが、ブレジネフ時代に入つてほど経た一九七一年には三名となり、党書記長の個人的権威が噂されはじめた一九七六年以後にあつては四名へと拡大されている。⁽¹⁹⁾

しかし、カザフのみならず、一般に共和国党のビュローへの州党第一書記の組み入れが厳しく監視されているとしても、また現に州党第一書記に対しては例えばノーメンクラトゥラ制（номенклатура）を通して党中央が、直接彼等を統括しているけれども、連邦党の中央委員会および連邦の最高会議がひとしくそのエクス・オフィシオ・メンバーシップを州党第一書記に広く解放している理由は未だ説明されてはいない。この点については、中央委員会の規模の拡大が委員もしくは議員候補を兼ねる州党第一書記の増加と平行していること、ブレジネフ時代に入つてから州党第一書記の地位の安定化が著しく進行していることに注目しなければならない。委員もしくは議員候補を兼ねたカザフの州党第一書記の漸増については先きに記したが、例えば第二回党大会で委員に選出された州（地方と自治共和国およびモスクワ市とレーニンград市を含む）の党第一書記は四六名、それが第二回党大会では五七名と増加している。しかも、ブレジネフ時代においては、解任された州党第一書記の約三分の二が「横すべり」（lateral move）、「死亡」あるいは「退職」・「昇進」を理由としており、「降等」（denotion）の比率はフルシチョフ時代の四八・五％から三六・八％に低下している。⁽²⁰⁾特に、党書記長の朋友の一人であるクウナエフが党第一書記のポストにあるカザフにおいては、州党第一書記解任の理由となつた「横すべり」と「昇進」の比率は全連邦平均よりも高く、「降等」の比率は全連邦平均よりも低い。⁽²¹⁾

もつとも、カザフの州党第一書記には、この共和国人口の民族的構成からするとカザフ人が比較的多い。例えば、第六期から第一〇期までの最高会議の代議員となつた州党第一書記の実数は三〇名であるが、その内の一五名がカザフ人、一二名

がロシア人、そして三名がウクライナ人であり、しかもまたカザフ人一五名の州党第一書記の「横すべり」先きのポストあるいは「昇進」先きのポストはカザフの国境内にかぎられている(同じような軌道をたどるロシア人の州党一書記は五名、ウクライナ人の州党第一書記は二名である)であるけれども、州党第一書記の安定化がブレジネフ政権の長期化の一因をなしていることは否定できない。しかし、カザフにもみられるような州党第一書記の交替頻度の低下——フルシチョフ時代の年間四・六回からブレジネフ時代の年間二・一回への低下は同時に任期の長期化、老齢化、したがって人事の停滞を意味することにもなる。したがって、党書記長の交替は、どのようなかたちをとるにせよ、カザフのエリート的大幅な人事の変動をもたらすであろう。

- (1) 「資料、ソ連邦の人口」、『ソ連月報』誌、第四四一号(一九八〇年三月号)、二三頁。
- (2) 同誌、二六頁。
- (3) 一九七九年の『国勢調査総計』(Итоги Всесоюзной переписи населения)は未刊行であるため一九七〇年の『国勢調査総計』によっている。
- См., ЦСУ СССР, Итоги всесоюзной переписи населения 1970 года, Москва, 1973, том IV, с. 223.
- (4) 拙稿「ロシア帝国の遺産」、『法学研究』第四五巻、第一一号)参照。
- (5) правда, 30 августа, 1980, с. 2.
- (6) スターリンの死後、「書記長」(Генеральный секретарь)に代わって「第一書記」(Первый секретарь)という名称が一九六六年四月の党規約の改正まで使われていた。したがって、一九五三年九月の中央委員会総会でフルシチョフが第一書記に選ばれてから一九六六年四月の党規約改正まではフルシチョフは無論のこと、彼の後をついだブレジネフも正しくは書記長と呼び得ないわけであるが、便宜上本稿では書記長と呼ぶことにする。
- (7) 一九三六年制定の旧連邦憲法では最高会議代議員の任期は四年と定められていたが、一九七七年一〇月七日制定の現行連邦憲法ではそれが五年と改められている。
- (8) 旧党規約では、通常の党大会は四年に一回以上召集されるとあったが、一九七一年の第二四回党大会でこれが、五年に一回以上と改められている。
- (9) 従来の党大会では党員を代表する代議員(Делегат с решающим голосом)と党員候補を代表する代議員(Делегат с совещательным голосом)とがあったが、第二五回党大会では代議員は党員代表にのみきざられた。なお、党員候補を代表する代議員は党員ではあるけれども、決議権は与えられていない。
- (10) 第九期の連邦最高会議のみならず、最高会議代議員の当選当時の現職は、投票日の数日後に発表される選挙結果に関する中央選挙委員会報告(Изв-

一三五（四二三）